

1. 科目名 (単位数)	公民科指導法Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	SSMP3443 SNMP3443 SCMP3443 SBMP3443
2. 授業担当教員	小野智一		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	同一年度に公民科指導法Ⅰ(科目「公共」を取り扱う)を履修することが望ましい。		
7. 講義概要	<p>公民科の目標は「現代の社会について主体的に考察させ、理解を深め、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」である。本科目では、学習指導要領で示される指導内容についての解説にとどまらず、授業実践事例について学ぶことで、受講生の公民科指導能力の成長を理論と実践の両面から支援することを目指す。そのために公民科の指導を通して公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度を養うことの意義や、参画に必要な知識や技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等について理解し、これからの時代に求められる資質・能力や公民科学習のあり方を探求する。</p> <p>なお公民科指導法Ⅱでは、公民科科目のうち、倫理および政治経済に重点を置いている。自立して思索を行い、他者と共に生きる主体を育む「倫理」、グローバルな視点をより重視して国家及び社会の形成により積極的な役割を果たす主体を育む「政治・経済」といった各科目の特性についても取り上げるものとする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公民科科目「倫理」「政治経済」の意義、目標および内容について説明することができる。 2. 「公民科」授業の実践に必要な知識、技能について見通しを持ち、教員を目指すに当たった学習課題を設定することができる。 3. 公民科科目「倫理」「政治経済」の教育内容となる現代の諸課題について他者との議論を通して理解を深め考察することができる。 4. 「倫理」「政治経済」に関する指導計画、単元指導案、学習指導案を作成することで授業づくりについて学び、公民科の実践課題について考えることができる。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>講義内で模擬授業を発表します。その過程で学習指導案、教材等の作成に取り組むこととなりますが、これらをレポートとして評価します。</p> <p>第1-8回はリーディング・アサインメント(RA)を事前事後学習課題として配付します。授業内で解説することとなりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習ののちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。</p> <p>模擬授業については、発表後検討会を行い、その後、振り返りレポートを提出することとなります。</p> <p>テーマ:「倫理」「政治経済」の領域より、一つトピックを選定し、指導案を作成しなさい。</p> <p>※なお、重複を避けるため、講義内にて担当科目の振り分けを行います。</p> <p>また、本講座では、経済教育実践教材である日本証券業協会「株式学習ゲーム」の実践にも参加します。本活動は成績評価の対象ではないが、公民科学習内容の理解を手助けする材料になるため授業内で指示する課題には積極的に取り組んでください。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』東京書籍 (以下、シラバス内ではテキストと呼称する)。</p> <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本社会科教育学会編『社会科教育事典』ぎょうせい、2012年。 2) 日本公民教育学会編『公民科教育事典』第一学習社、2009年。 3) 東京福祉大学編『教職科目要説(中等教育編)』ミネルヴァ書房。 4) 文部科学省『高等学校公民科用教科書 倫理』東京書籍 5) 文部科学省『高等学校公民科用教科書 政治・経済』東京書籍 6) 文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房。 <p>ほか、各社検定済み教科用図書。</p> <p>【参考資料】 高等学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公民科科目「倫理」「政治経済」の意義、目標および内容について説明することができる。 2. 「公民科」授業の実践に必要な知識、技能について見通しを持ち、教員を目指すに当たった学習課題を設定することができる。 3. 公民科科目「倫理」「政治経済」の教育内容となる現代の諸課題について他者との議論を通して理解を深め考察することができる。 4. 「倫理」「政治経済」に関する指導計画、単元指導案、学習指導案を作成することで授業づくりについて学び、公民科の実践課題について考えることができる。 <p>○評定の方法</p> <p>成績評価の規準1~3についての達成度を以下の方法により評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各受講生の参加意欲・態度(課題の提出状況も含む)について総合的に評価する。(30%) ・各受講生の授業での発言・共同作業(模擬授業やディスカッションなど)の実態等から総合的に評価する。(30%) ・各受講生の知識理解や思考の深まりについて、作成した指導案・模擬授業の指導内容・レポートから評価する。(40%) 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>受講生の多くは将来、高等学校教諭を志すと推察します。免許の取得には、実習が伴います。短期間の実習ですが、その間に実習先の生徒に有益な授業実践ができるように努めましょう。たとえ短期であっても教師に変わりはありません。免許を取得し、実際に教育機関へ勤務することになればそれ以上の責務を負うこととなります。本講義を通して、「学習者」としてだけでなく、「指導者」としての意識を併せ持てるよう努力してください。また、政治経済・倫理は専門知識を要求される科目でもあり、指導法以外の講義で学んだ事項についてはよく復習しましょう。</p> <p>本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。</p> <p>①授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁)</p>		

	<p>②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。</p> <p>③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めません。</p> <p>④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。</p> <p>また、教員は次のことを実行します</p> <p>①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。</p> <p>②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。</p> <p>③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言・発表等)できる双方向対話型の学習環境を作ります。</p> <p>④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話(メール・通話)の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。</p> <p>本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を妨害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。</p>		
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくはe-mailにて対応します。toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 時間割判明後、講義内にて案内します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	1)オリエンテーション(シラバスをもとにした本科目の目的、学習の進め方、評価についての説明)(シラバス確認しますので準備してください。コピーなど可。) 2)公民科教育の意義を考える 課題:「倫理」「政治経済」に期待されていることは何だろう。	事前学習	テキスト pp. 1-5。(改訂の経緯と教科目標)を読む。また、教育実習を経験した受講者は、実習記録など見直し、授業実践がどのように展開されていたか復習しておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディング・アサインメント(以下RAと表記:講義内で配布する事前事後学習用ワークシート)に取り組む。
第2回	1)「倫理」・学習指導要領解説 科目の性格と目標 内容とその取り扱い 2)教科書分析①倫理	事前学習	科目倫理の目標、内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第3回	1)「倫理」・学習指導要領解説 指導計画の作成と指導上の配慮事項について 2)指導案について①事例検討	事前学習	テキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第4回	1)「政治経済(政治)」・学習指導要領解説 科目の性格と目標 内容とその取り扱い 2)教科書分析②政治経済(政治分野)	事前学習	科目政治経済(特に政治に関する分野)の目標、内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第5回	1)「政治経済(政治)」・学習指導要領解説 指導計画の作成と指導上の配慮事項について 2)指導案について②指導計画について	事前学習	テキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第6回	1)公民科における倫理指導の実際・授業事例の検討 宗教教育教材の事例 2)学生授業発表についての構想①テーマについての構想発表	事前学習	各々、授業で取り上げる分野を考え、どのような授業をしてみたいか、意見発表できるように調べしておくこと。講義内で発表するために必要な企画書を作成する。
		事後学習	寄せられた意見、指導事項をもとに、第9回に設定される2回目の発表に向けた準備に取り組む。
第7回	1)「政治経済(経済)」・学習指導要領解説 科目の性格と目標 内容とその取り扱い 2)教科書分析③政治経済(経済分野)	事前学習	科目政治経済(特に経済に関する分野)の目標、内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第8回	1)「政治経済(経済)」・学習指導要領解説 指導計画の作成と指導上の配慮事項について(評価の観点を中心に) 2)発展的な公民科学習内容の探究～批判的思考育成のための教育とは～	事前学習	テキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第9回	1)公民科における政治指導の実際・授業事例の検討 「ガバナンス」について学ぶ事例 2)公民科実践研究の動向①法教育について	事前学習	RAにより法教育の考え方について整理する。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第10回	1)公民科における経済指導の実際・授業事例の検討 2)公民科実践研究の動向②金融教育について ICT活用型教材の事例紹介	事前学習	RAにより金融教育の考え方について整理する。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第11回	公民科実践研究の動向③人権教育について 公民科教育は「いじめ問題」とどう向き合うべきか。「公民科」における「政治」の学びの成果をもとに主権者教育にどう向き合うべきか。	事前学習	RAにより人権教育・政治教育の考え方について整理する。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第12回	学生授業発表についての構想③指導案発表 ※本時は発表後個別面談で助言指導するため、待機中には授業教材の作成などに取り組む	事前学習	現時点までの進捗状況報告を全体発表する。そのため企画書(完成しているならば指導案)を準備する。個別指導待機の時間に取り組む模擬授業発表に向けた

	む。		作業を用意する。
		事後学習	意見、指導助言をもとに次回以降に設定される授業発表に向けて指導案・教材の見直しに取り組む。
第13回	授業プレゼンテーション（学生発表①倫理）・ 検討会	事前学習	発表学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞く学生は講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表学生は意見メモ(生徒役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞く学生は意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自らの授業案への改善点として検討してみる。
第14回	授業プレゼンテーション（学生発表②経済）・ 検討会	事前学習	発表学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞く学生は講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表学生は意見メモ(生徒役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞く学生は意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自らの授業案への改善点として検討してみる。
第15回	授業プレゼンテーション（学生発表③政治）・ 検討会	事前学習	発表学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞く学生は講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表学生は意見メモ(生徒役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞く学生は意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自らの授業案への改善点として検討してみる。